種市一正後援会事務所
〒033-0123 三沢市大字三沢堀口15-2
Tel & Fax. 0176-54-5070
http://www.taneichi-misawa.com

大地の会
事務局 Tel.090-9034-1357（安田勝司）
Fax. 0176-53-8088（東北企画内）

政策へのご意見をお聞かせください

この政策集に記載された政策へのご意見・ご感想をぜひお寄せください。種市一正は「市民参画」と「協働」をキーワードに、お寄せいただいたご意見、ご感想を今後の政治活動に活用させていただきます。

新入会員を募集しています

後援会・後援会青年部「大地の会」の新入会員を随時募集しています！ご賛同いただける方は、ぜひ上記連絡先までご連絡ください。

後援会討議資料

幸せのタネを蒔こう

種市一正 マニフェスト NEXT 2019

政策集

「市民参画」と「協働」

種市一正が市民の皆様からの負託を受け、２期目の市長就任から４度目の春を迎えます。この間、大きく変化する社会情勢と厳しい経済情勢の中、「住んでよかった」、「これからも住み続けたい」と実感できる魅力あるまち「人とまち みんなで創る 国際文化都市」を目指し、まちづくりの主役である市民の皆様の温かいご支援とご協力をいただきながら、「市民参画」と「協働」をキーワードに、市政運営に全力を傾注してまいりました。

おかげさまで「主婦が幸せに暮らせる街ランキング」では、三沢市が北海道・東北ブロックで１位、全国でも12位となったほか、市民満足度調査では、「住みやすい・定住したい」の意向は８割近くとなり、多くの項目で満足度が上昇してきました。

これからも市民が主体となった「みんなで創る」にぎわいのある元気な三沢市の実現のために、三沢市総合振興計画の後期基本計画を確実に実現し、さらに種市一正の責任と約束として「マニフェストNEXT2019」を実現して参ります。

種市一正の実績

これまでの実績の一部を紹介いたします

未来を拓く人づくり 福祉・医療・教育・協働・情報など

市政運営の基本方針である「市民参画」と「協働」を進めるため、『**住民懇談会**』を地区別に６回、年齢別や職業別に７回、合計 13回、住民の方々と直接対話形式で懇談しました。市民の皆さんのニーズを切れ目なく肌で感じ取ることができ、古間木川河川敷への桜の植樹、町内会に対する除雪機の貸与、三沢で獲れた魚介類の販売所（浜の駅）、子ども館の建設計画などに意見が反映されました。また、県南地域では初の診断施設となる市立三沢病院の『**PET−CT診断施設**』により、早期の小さながんの発見や部位の正確な特定などができるようになりました。従来の検査に比べ、肺がんで20倍、大腸がん・乳がんでは 10倍、発見率が高まると言われており、がんの早期診断により完治率の向上が見込まれています。

■**その他の実績**／「グローバル人財養成セミナー」、「三沢市立第三中学校新築」、「子供医療費給付対象年齢の引上げ（15歳までを対象）」、「妊婦健康審査公費負担の拡充（2回から14回まで）」、「ミス・ビードル号復元機が三沢市の空を飛翔」、「地産地消でわんぱく家族米を支給」、「上十三・十和田湖広域定住自立圏形成協定を締結」、「新市立三沢病院開院」、「仕事に学び、人に学ぶ『ゆめ』実現推進事業」、「協働のまちづくり市民提案事業」など

新成人と大いに語らった住民懇談会

地域医療の要「市立三沢病院」

主婦が幸せに暮らせる街ランキング1位!

「主婦が幸せに暮らせる街ランキング」で三沢市が**北海道・東北ブロックで1位、全国では12位**となりました。また、市民満足度調査（平成26年）では、**「住みやすい・定住したい」の意向は約8割**となっており、多くの項目で満足度が上昇しています。

※学研パブリッシングによる 2014年4～5月、104 都市4,793名の20～49歳の主婦を対象にした調査結果。

人が行き交うまちづくり 商業・観光・交通・都市基盤など

三沢空港では、平成 25年３月に『**大阪（伊丹）線が復活**』し、大阪・京都・神戸など関西圏域と１時間30分で結ばれ、7月には『**札幌丘珠線が就航**』し、札幌市と1時間で結ばれました。これらの増便によって平成26年度は三沢空港利用者数が約24万人と増加し、今後さらに文化・観光・ビジネスなど様々な分野の交流により、経済の活性化に期待が高まっています。観光の大きな要素であるグルメでは、『**三沢ほっき丼**』が冬場のご当地グルメとして定着し、2万食を超える総販売数となっているほか、新たに『**パイカ料理**』や、天井桟敷ラーメン、寺山修司ラーメン、寺山盆カレーセットなどの『**寺山修司が愛したスペシャル・メニューの復元**』も注目されています。

■**その他の実績**／「南ニュータウン（140区画）」、「パスポート窓口を開設」、「企業誘致（三沢エンジニアリング、多摩川精機株式会社、北神エンジニアリング、プライフーズ㈱三沢みどりの郷工場新設）」、「観光イベント等の統廃合・創設（となみウィンター・ファンタジー、ファームフェスタ in 斗南、まんぶく祭り）」など

三沢・札幌丘珠線就航記念セレモニー

グルメイベントでも大好評のパイカ料理

心安らぐ生活づくり 防災・消防・雇用・農業・水産など

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた『**漁港施設を短期間で復旧**』しました。震災の2ヵ月後には一部操業を開始し、その後順次施設を復旧して、平成26年３月の漁協事務所等の完成で全ての復旧が終了。復旧後の平成26年の三沢漁協の水揚げ高は約15億円と過去最高を記録しました。また、平成23年12月には『**食肉処理センターの大規模改修**』に着手し、一日当たり処理能力が1300頭から2300頭と約２倍にアップ。これに伴い誘致企業であるスターゼン・ミートプロセッサー㈱も増築を行い、生体搬入から豚肉のカット肉までの工程では日本一の処理量と言われるまでになりました。

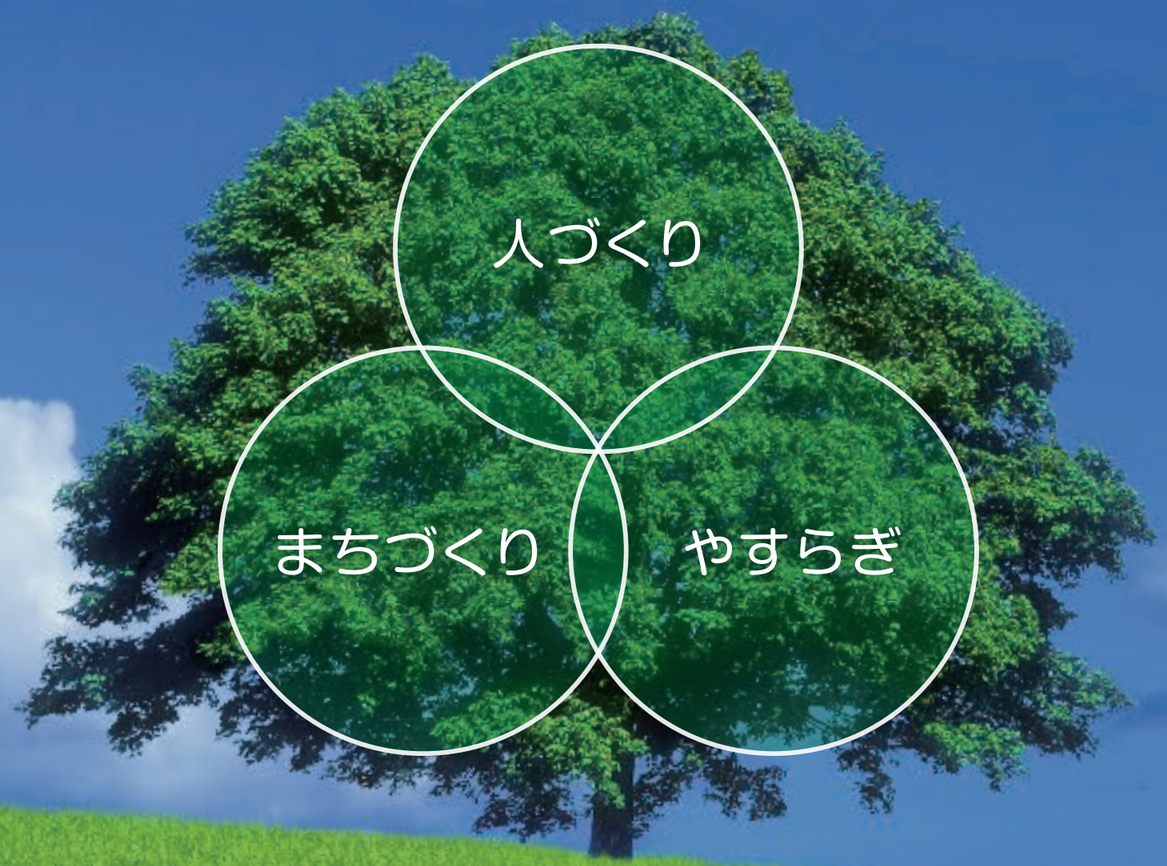
■**その他の実績**／「情報メール in 三沢の配信」、「第一配水場供用開始」、「産業活性化住宅新築リフォーム補助金新設」、「長ごぼう冷蔵貯蔵施設」、「人参洗浄選別施設」、「農産物加工施設（給食センター併設）」、「基地との共存共栄は堅持」など

被災した漁港施設の迅速な復旧（浮桟橋）

食肉処理センター大規模改修記念セレモニー

種市一正の責任と約束

私は、市民の皆様とともに
国際文化都市という三沢の樹を育てたい。
苗木を大事に育て**［人づくり］**
その樹が大地に根を張り**［まちづくり］**
葉を繁らして人々を守る**［やすらぎ］**。



人づくり

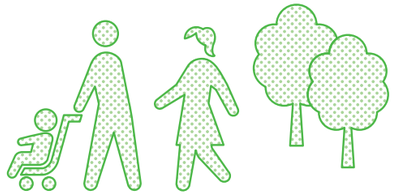
未来を拓く人づくりによって様々な世代の
市民が活躍するまちづくりを進めます！

マニフェスト 01 県内一子育てしやすい環境を作ります。

▶子ども医療費（15 歳まで自己負担なし、入院通院とも給付対象）の充実
▶未就学児童の遊びの場、子育て世代の情報交換・交流の場として「子ども館」の建設

合計特殊出生率

1.79 → 2.10（0.31 UP!）



※合計特殊出生率：一人の女性が一生の間に産む子供の数。（全国平均 1.38、青森県平均 1.37）

マニフェスト 02 学校教育を充実させ県内トップクラスの学力水準を目指します。

▶学習支援員・特別支援員の拡充
▶三沢版コミュニティ・スクールの導入

「小中学生が充実した教育を受けている」と感じる市民の割合

62% → 80%（18% UP!）

マニフェスト 03 将来の国際文化都市を担う若い世代を育成します。

- ウェナッチ・バレーとの姉妹都市交流の内容充実
- 大学とも連携したグローバル人材育成講座の充実
- アメリカンデー、ハロウィンフェスタ、日常における異文化交流を支援

国際交流活動に参加する市民の割合

9% → 11% UP! → 20%

マニフェスト 04 市民活動が活発な市民が輝くまちにします。

- 市民提案型事業の拡充（ボランティア活動支援）
- 町内会加入率向上を積極的に応援
- 地域の課題を自ら考える仕組みづくり

市民活動団体登録数

63団体 → 37団体増! → 100団体

町内会加入率

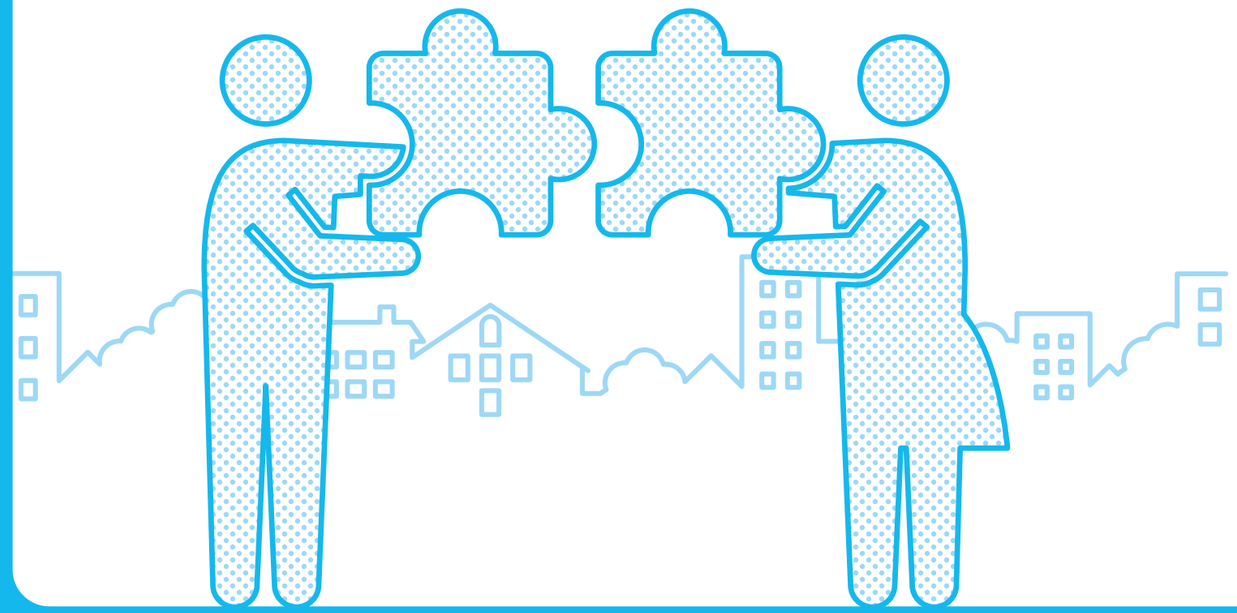
61% → 9% UP! → 70%

マニフェスト 05 まちづくりを支える職員を育成します。

- 地域担当職員制度の活性化
- 人材交流と研修制度による職員の意欲と能力の向上
- 職員が「誇り」と「やりがい」を持って業務に取り組める職場づくり

まちづくり

女性が輝き、多くの人が集う
賑わいのあるまちづくりを進めます。



マニフェスト06 三沢の特性を生かした企業誘致と起業支援で働く場を確保します。

- ▶新産業創造支援センターの活用
- ▶航空機関連産業、炭素繊維リサイクル関連産業など新たな企業の誘致
- ▶観光施設の誘致

誘致企業社数・起業者数

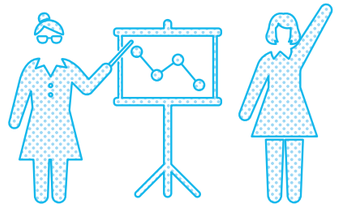
今後4年間で10社

マニフェスト07 女性の活動を積極的に支援します。

- ▶ママさんリバイバル事業（結婚、出産などで仕事を離れた方の総合支援）
- ▶「カジダン」「イクメン」などの男性の家事参加と育休・働き方の見直しを推奨
- ▶女性管理職や審議会の女性比率向上

審議会などの女性比率

今後4年間で30%

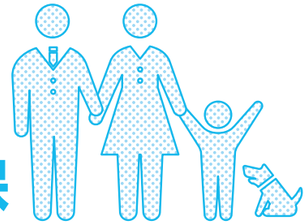


マニフェスト 08 定住人口を維持するため U・Iターンの受け皿を整備します。

▶安価な住宅地の供給
▶流入人口増加プランの作成

日本全体で人口が減少する中にあっても
定住人口

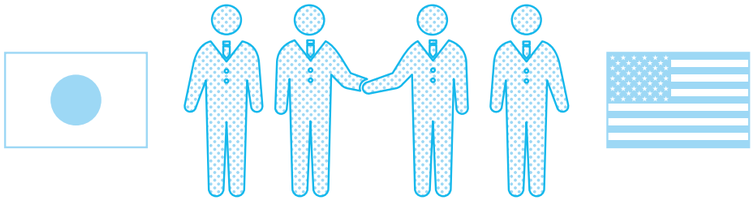
40,000人以上確保



※平成22年度総務省統計局国勢調査時 41,258人

マニフェスト 09 基地との共存共栄を継続します。

▶住宅防音工事促進
▶アメリカンバーの観光資源化
▶基地所在によるプラスの効果を生活・文化・教育・経済の分野で最大限引き出す

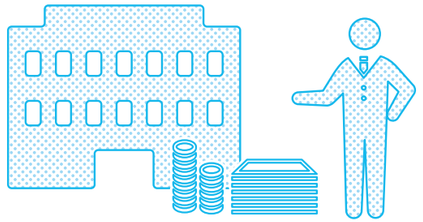


マニフェスト 10 公共施設の見直しを行うとともに市民生活に必要な施設を整備します。

▶施設の在り方を考える「公共施設等総合管理計画」の策定
▶お年寄りや子供にやさしい「バス停の環境整備」
▶生活機能の確保を市単独ではなく、「上十三・十和田湖広域定住自立圏」という広域連携の枠組みの中で検討

実質公債費比率

13.6%を維持



※実質公債費比率とは、地方自治体の収入に対する実質的な借金の比率で、18%を超えると様々な制約がある。

三沢空港↔羽田空港(東京)便

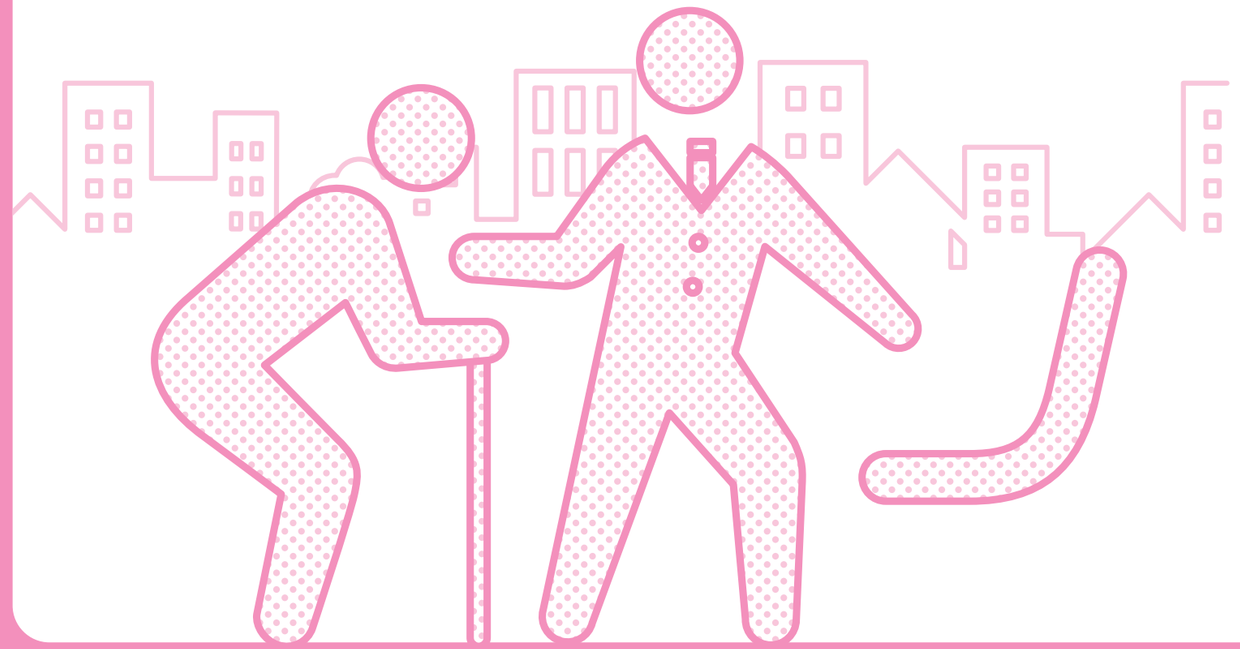
3便 → 4便（1便増!）

老朽化した市営住宅の建て替え

今後5年間で3団地

やすらぎ

市民のだれもが安全で安心に働き暮らせる
活力のあるまちづくりを進めます!



マニフェスト11 在宅医療と介護の連携を深め元気なお年寄りを増やします。

- ▶医師会との連携強化
- ▶「おらほの寺子屋」など介護予防活動の充実
- ▶市民全体で認知症予防に取り組む体制づくり

認知症サポーター
424人 → 576人増! → 1,000人

マニフェスト12 子供からお年寄りまで文化とスポーツに触れ合えるまちをつくります。

- ▶文化とスポーツに「総合的なまちづくりの視点」を導入するための組織体制の見直し
- ▶文化関連団体の活動促進、市体育協会との連携

「芸術・歴史・文化・に親しむ市民の満足度」の割合
54% → 6%UP! → 60%

「定期的にスポーツを行う市民」の割合
28% → 12%UP! → 40%

マニフェスト13 がん対策を充実させ 健康で長生きな市民を増やします。

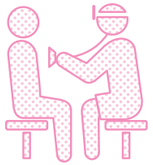
- ▶健やか力推進センターと協力した健康都市宣言
- ▶市立三沢病院にPET−CTが導入された優位性を生かした がん予防から治療までの堅固な体制を構築

運動習慣のある市民の割合

51% 19% UP! 70%

がん検診受診率

20~32% 8~30% UP! 40~50%

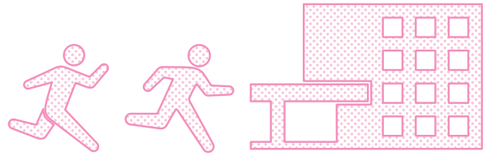


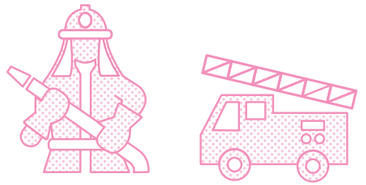
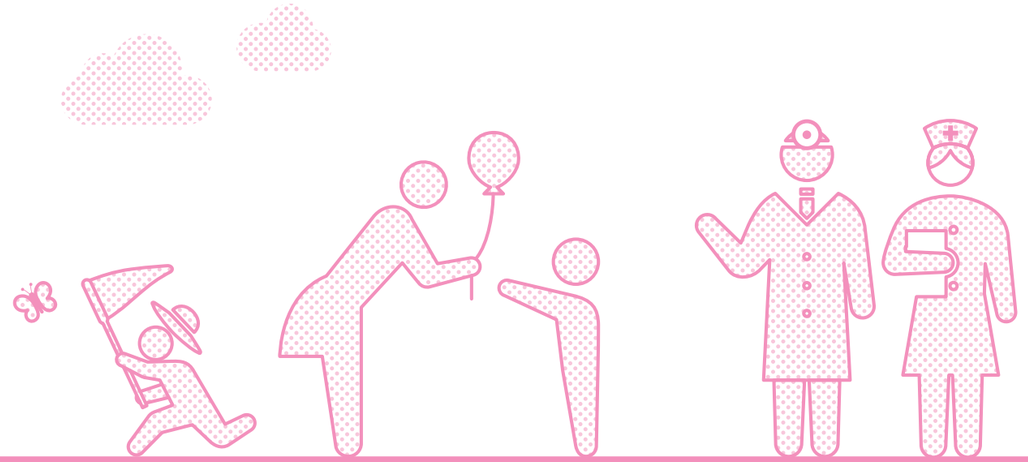
マニフェスト14 長芋、ニンニク、ゴボウ、豚肉、北寄貝などの地場産品の認知度と信頼性を高め ブランド化を図ります。

- ▶積極的な情報発信と地産地消の推進
- ▶地域連携を重視した6次産業化の推進
- ▶地場産品ブランド化推進会議の立ち上げ

マニフェスト15 防災意識の強い 安心・安全なまちをつくります。

- ▶防災情報の伝達手段の強化
- ▶地域ごとの防災訓練の充実
- ▶災害の記憶を残す取組



自主防災組織の組織率

54% 11% UP! 65%